



Corporate Social Responsibility Report 2012

三和ホールディングス
CSR報告書 2012

私たちの使命・経営理念・行動指針



使命

安全、安心、快適を提供することにより社会に貢献します

経営理念

お客さますべてが満足する商品、サービスを提供します
世界の各地域で評価されるグローバルな企業グループとなります
個人の創造力を結集してチームワークにより、企業価値を高めます

行動指針

- 一、お客さまの信頼の向上のために感謝と誠意をもって、業務活動を行ないます
- 一、国内外、社会のニーズに応える品質・コストを追求し、トップブランドを確立します
- 一、未来を先取りし、絶えずあらゆる部門の技術レベル・生産性を向上をさせます
- 一、ルールを遵守し、自由闊達で風通しのよい、やりがいのある職場づくりを行ないます
- 一、常に自己啓発し、自ら高い目標に挑戦し、自らの役割と責任を認識し、価値創造に貢献します

三和グループの概要

会社概要(2012年3月末現在)

代表者名：高山俊隆

所在地：〒163-0478

東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル52階

設立：1956年4月10日

※2007年10月1日持株会社化に伴い「三和シャッター工業株式会社」より商号変更

資本金：38,413百万円

従業員数：8,521名(連結)

主な事業

ビル・商業施設建材事業

- シャッター製品
- シャッター関連製品
- ビル用ドア製品
- 間仕切製品
- ステンレス製品
- フロント製品

住宅建材事業

- 窓製品
- エクステリア製品
- 住宅用ドア製品
- 住宅用ガレージドア製品

メンテナンス・リフォーム事業

- メンテナンス・サービス事業
- リフォーム事業

その他事業

- 車両用ドア製品

主なグループ会社

国内

- 三和シャッター工業株式会社
- 沖縄三和シャッター株式会社
- 昭和フロント株式会社
- 三和タジマ株式会社
- 三和エクステリア新潟工場株式会社
- ベニックス株式会社
- 昭和建産株式会社
- 田島メタルワーク株式会社
- 鈴鹿エンヂニヤリング株式会社
- 林工業株式会社
- 株式会社メタルワーク関西
- 株式会社吉田製作所
- 株式会社リビング百十番ドットコム
- 三和保険サービス株式会社

海外

- オーバーヘッドドアコーポレーション[米国]
- ノボフェルムグループ[欧州]
- 三和シャッター(香港)[香港]
- 安和金属工業[台湾]
- 三和喜雅達門業設計(上海)[中国]
- 上海宝産三和門業[中国]
- ノボフェルム上海[中国]
- ビナサンワ[ベトナム]
- サンメタル[タイ]
- サンワマス[インドネシア]

■ 編集方針

「CSR報告書2012」は、三和グループを取り巻くステークホルダーの皆様との重要なコミュニケーションであり、CSRの取り組みや活動を多くの方にわかりやすくお伝えすることを目的として発行しています。

1996年にアメリカオーバーヘッドドア コーポレーション(ODC)をグループに迎え、以降、企業価値創造のためのグローバル戦略を展開し、日本・米国・欧州・アジア(中国)の4極で『動く建材』分野において確固たる地位を築き、そのメリットを活かしたグループ間のグローバルシナジーを追求してきました。各地では、現地に根付いた事業展開が図られ、CSRの取り組みもこれまで以上に多くの事例をご紹介できるようになりました。

また、Webサイトではタイムリーな情報開示を目指し、年度報告にとどまらず最新の活動報告を定期的に開示しています。今後も改善を重ね、報告内容の質を向上させるため、皆様のご意見をいただきながら一層の充実をめめます。

■ 報告対象

対象期間：2010～2011年度の活動を中心に、一部それ以前の取り組みや直近の活動報告も含んでいます。

対象範囲：三和グループ国内および海外会社(記述内容は三和ホールディングス、三和シャッター工業の活動を中心に記載しています)

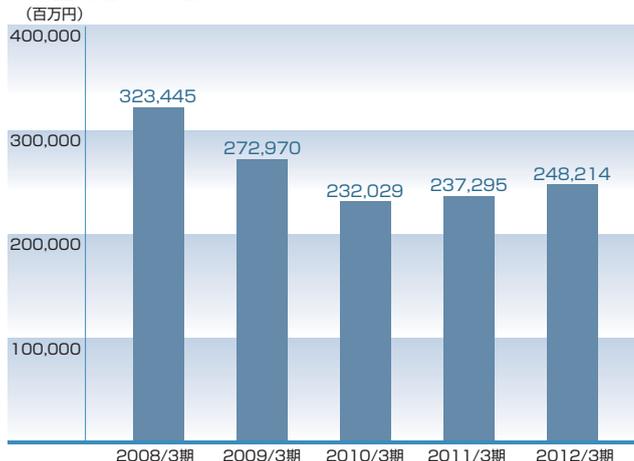
発行時期：2012年10月

■ 関連レポート

三和グループの業績・財務報告については「有価証券報告書」「アニュアルレポート」などで情報を公開しています

財務情報

■ 売上高推移(連結)



■ 2012/3期業績

連結ベース	2012/3期
売上高(百万円)	248,214
営業利益(百万円)	8,855
当期純利益(百万円)	3,297
総資産(百万円)	226,579
1株当たり配当金(円)	8

CONTENTS

■ 私たちの使命・経営理念・行動指針	1
■ 三和グループの概要	1
■ 編集方針、報告対象、関連レポート	2
■ トップコミットメント	3
■ 特集	
■ 「東日本大震災からの被災地復旧・復興支援」の取り組み	5
■ 「オーバーヘッドドア コーポレーション(ODC)」のCSRの取り組み	9
■ 三和グループのCSR	11
■ 活動報告	
■ 01 お客様に満足いただける商品・サービスの提供	13
■ 02 従業員とともに	15
■ 03 三和グループを支える施工技術者・調達先との関わり	17
■ 04 地域社会と共生しながら社会に貢献	18
■ 05 ものづくり企業の責任として取り組む環境への配慮	19
■ 06 コーポレート・ガバナンス リスクマネジメント コンプライアンス	21
■ 工場での取り組み事例	
■ 札幌工場	23
■ 広島工場	24
■ 国内グループ会社での取り組み事例	
■ 昭和フロント株式会社	25
■ 三和タジマ株式会社	26
■ 沖縄三和シャッター株式会社	27
■ 三和エクステリア新潟工場株式会社	28
■ 海外グループ会社での取り組み事例	
■ ノボフェルムグループ	29
■ 上海宝産三和門業／ノボフェルム上海	30



誠実な経営、誠実なPDCA そして誠実なCSR

昨年3月の東日本大震災から1年余りが経過しましたが、原発問題や避難所生活を余儀なくされる方も多く、まだまだ復興には時間を要する状況です。被災された方およびそのご家族の方にお見舞い申し上げます。

三和グループでは、使命、経営理念、行動指針に基づき、大きな被害をもたらした被災地に対し様々な取り組みを行なっています。震災直後には、シャッター等の点検・修理への緊急対応、仮設住宅向け建材の供給、義援金の寄贈などを実施してまいりました。その後の電力不足への対応につきましては、事業所の照明・空調の抑制、エレベーターの使用制限、工場のシフト勤務などグループ全体で省エネ活動に取り組んでいます。一日も早い復旧・復興に向け、これからもグループ一丸となって取り組んでまいります。



当社グループは、お客様に対し、安全・安心・快適を安定的に提供するとともに、社会の期待と信頼に応えるべく商品・サービスの品質向上・コンプライアンスの徹底・情報公開の拡充・環境保全・社会貢献などの企業の社会的責任を、誠実に一人ひとりがP(Plan)、D(Do)、C(Check)、A(Action)を回しながら実行することで、はじめて皆様からの“信頼”を得られるものと考えております。

振り返れば、当社グループは2000年12月に長期ビジョン《2010ビジョン》を発表しました。その柱は、日本、米国、欧州、中国(アジア)の4極で確固たる地位を築くとともに、CSRとも関わる環境、防犯、防災、介護などの新規分野への進出を成すことです。しかし、経済環境の激変に対応し切れず途中で計画の延長を余儀なくされるなど紆余曲折がありました。

グローバル・メジャーとして、世界4極体制を早期に確立させ、新たな成長軌道へ向け、2010ビジョンに替わる長期ビジョンを現在策定しております。社会や環境に配慮した商品開発に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献すること。それがステークホルダーの皆様からの長期的な信頼、社会・環境の変化に対する適応力、そして存在を期待されるブランド力につながると考えています。一時的な利益ではなく、着実に発展を続けていくことを重視していきます。

そのビジョンを三和グループの全従業員が共有し実現させるために、PDCAサイクルを誠実にまわし、真面目かつ健全で透明性のより高いグループを目指していきます。

世界4極体制による さらなるグローバル展開に向けて

現在、当社グループは、日本における事業基盤を基礎としつつ、米国、欧州、アジア(中国)の世界4極体制で事業展開しております。

かかる各地域でその地域特性を生かした販売・調達・生産・技術開発及び新ビジネスの開拓を各々の地域のグループ会社が生担するとともに、当社グループとしてグローバル・シナジーを最大限に発揮することが、お客様が満足する競争力の高い商品・サービスを提供するために必要と考えております。

グローバルに展開していくために最も重要なことは“人材強化”です。従業員へのチャンスの場として意欲と関心

のある人材を社内公募し、1年間の海外研修や語学研修を行う制度を2010年より実施しています。

「CSR報告書2012」では、中核事業会社である三和シャッターの取り組みを中心として、国内のグループ会社・海外のCSRの取り組みや海外研修の一部もご紹介しております。この報告書を通じて三和グループのCSRの考え方と活動についてご理解いただき、忌憚のないご意見、ご感想をいただければ幸いです。

2012年10月

三和ホールディングス株式会社
代表取締役社長

高山俊隆

世界4極体制

EUROPE

欧州
NOVOFERM
GROUP

JAPAN

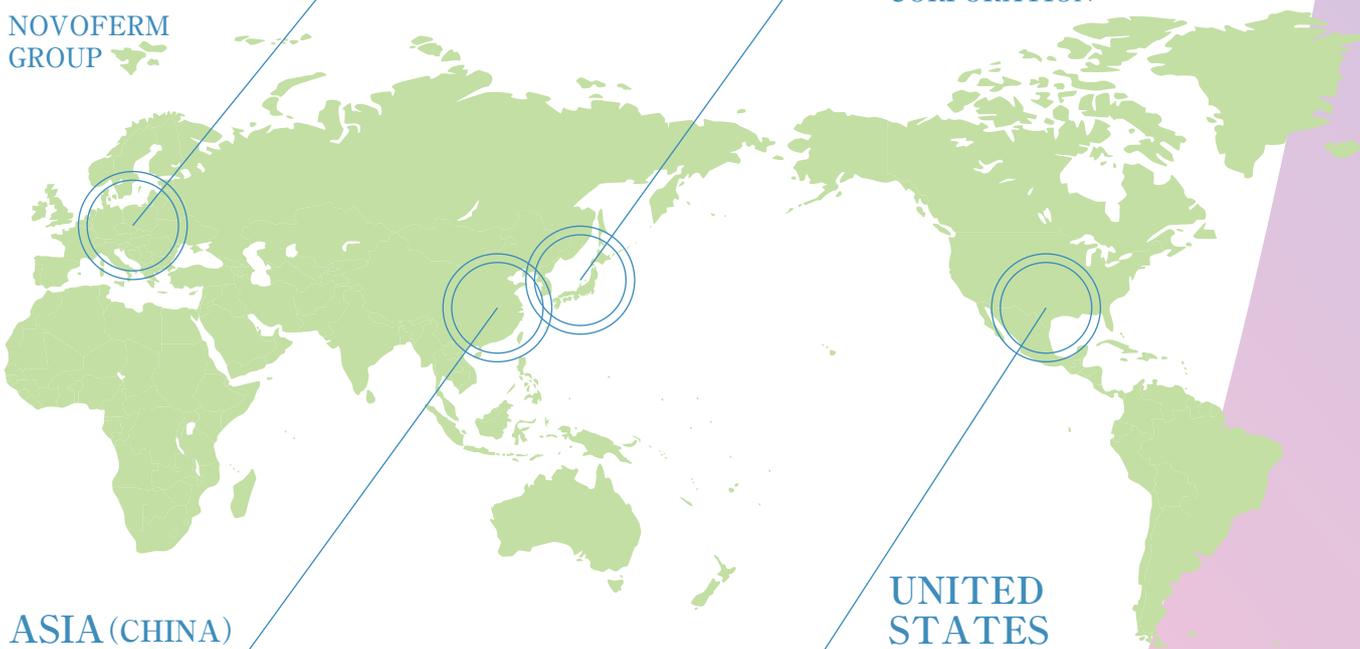
日本
SANWA SHUTTER
CORPORATION

ASIA (CHINA)

アジア(中国)

UNITED STATES

米国
OVERHEAD DOOR
CORPORATION



特集

「東日本大震災からの被災地復旧・復興支援」の取り組み

被災地の現状復旧に総力をあげたこの1年 東北復興の「持続的な支援」に 復旧から復興のステップへ

東日本大震災発生後、三和グループは、生産の早期再開・通常化へ総力を傾けるとともに、被災地復旧に総力をあげて取り組んできました。被害に遭われた地域の皆様には、主要情報源であったラジオを通じて安心を提供。また、仮設住宅ドアをいち早く被災地にお届けできるよう体制を強化しました。

いま、被災地は復旧から復興の段階に移行しているものの、地域によっては以前のような活気を取り戻すには、まだ時間がかかります。東北の地にも拠点を置き、事業を展開する三和グループは、本業である建材事業を通じて地域を応援し、東北の活気を取り戻すために貢献していきます。

三和グループの被災状況と取り組み

震災発生当時は、従業員の安否確認を最優先とし、また震災翌日には三和シャッター本社に対策本部を設置、5カ所の災害対策支部に支部長を置き、現場の情報収集および復興に向けた必要項目の抽出と現地対応を図りました。

1. 人的被害の状況(安否確認)

グループ従業員・施工技術者およびその家族については、幸いにも人的被害はありませんでした。安否確認には、2007年に導入した「安否確認システム」も活用し、一元管理したものの、導入対象がグループ全体ではなかったため、システムの導入拡大が今後の課題です。

2. 物的被害の状況

生産設備	三和シャッター足利工場、太田ドア工場、秋田工場の設備が一部損傷を受けましたが、数日で全面復旧
販売拠点	三和シャッター宮古出張所、石巻営業所、いわき営業所、佐原営業所等、東北、関東地方の多くの営業所が被害を受けましたが、3月28日には全営業所において営業再開

現場の声

福島に転勤してきて、わずか半年で大震災に遭遇しました。避難対象地域に入った原町出張所を離れて福島営業所で営業再開を目指し、2カ月後ようやく戻ることができました。南相馬市はしばらく復興もままならない状態でしたが、何とかしたいという思いはむしろ強くなり、この街にいることの必然性を自覚できました。今後もこの街で復興に尽力します。

三和シャッター工業 福島営業所 原町出張所長 大草政俊

義援金・寄付・支援物資等

1. 義援金・寄付について

東日本大震災の被災地および被災された方々への支援として義援金を寄贈しました。三和ホールディングス、国内各社の従業員有志で構成する社会貢献倶楽部、海外各社と海外従業員有志からも善意が寄せられました。

	金額
三和ホールディングス	3,000万円
三和グループ社会貢献倶楽部	380万円
海外グループ各社	1,800万円

2. 支援物資の確保と輸送について

三和グループが設置した対策本部は、被災地への迅速な支援物資供給を目指して震災直後に活動を開始しました。規制によって輸送が困難になることが予想されたため、足利工場から足利警察署に対して早急に緊急車両申請を提出し、トラック4台を輸送手段として確保しました。

支援物資は全国の三和グループ従業員に協力を依頼し、水やカップ麺、電池、ガソリン缶、カセットコンロなどを買付けました。関東以西で確保した物資は輸送拠点の足利工場に集められ、緊急車両を使用して仙台事務所に輸送され、そこから各地に配布されました。北海道と秋田で確保した物資は盛岡営業所に輸送され、各地に配布されました。

物資は被災した従業員だけでなく、施工技術者、家族、近隣住民とも共用し、助け合いました。



震災から1ヵ月後の4月、仙台市の東北営業部に三和ホールディングス高山社長と南本副社長が訪れ、現地従業員を激励

お客様への支援

震災直後から修理依頼が殺到し、既存のサービス体制での対応が困難になったことから、首都圏担当のサービスマンなどからなる応援チームを編成し、被災地を中心に派遣して応急修理に当たりました。

また、被災したお客様にシャッターなどの製品に異常が発生していないかを確認するための点検方法や、緊急対処方法を幅広く周知することが急がれました。

そこで、主要な情報源として被災地で活用されていたラジオを通じて、お客様に安心を提供するためにCMを流しました。CMは、2011年4月から約半年間にわたり流されましたが、最初の3ヵ月間は商品を使用する際の注意事項や相談先としてFTSの電話番号を提供する内容とし、後半の3ヵ月間は商品の安全に関する情報と修理依頼窓口としてFTSの電話番号を提供する内容としました。

生産部門でも復興に向け体制を強化しました。広島工場では、被災者の方々に少しでも早く元の生活を取り戻していただきたいという願いを込めて、2011年4～5月に仮設住宅ドア4,600枚を生産し、出荷しました。こうした対応は、他の工場や本社購買部など、関係各部署が連携することによって実現しました。



被災地仮設住宅のドア制作

設計・開発へのフィードバック

三和シャッター工業は、震災を教訓として、これまで以上に安全・安心な製品をお客様にお届けするための取り組みを行っています。震災直後には、製品が激しい揺れによってどのような被害を受けたかについて詳細な情報収集を行い、分析したデータをもとに既存製品の安全性能を改善しました。

たとえば重量シャッターの場合、巻取りシャフト、ケースをはじめ、特定部材の落下が数多く見られたことから、販売する重量シャッターすべてに部材落下防止対策を施しました。

■重量シャッターの主な改善点

- ・軸受けの補強追加
- ・巻取りシャフトの横ずれ防止部品追加
- ・各部材の現場溶接箇所追加による強度アップ
- ・角ケースの補強、丸ケースの外れ防止追加

開発者の声



地震対策を講じた重量シャッター

製品の耐震性能基準を見直すため、試験を繰り返している最中に震災が発生しました。改善すべき箇所をすでに把握していたことから、耐震性能を向上した製品を震災後すぐにお客様にお届けすることができました。

復興に向けた取り組み

三陸沖は世界有数の漁場といわれ、大地震と巨大津波の襲来は、中枢を担う沿岸の漁港にも大きな被害をもたらしました。被災地は日本の食料基地として欠くことができない地域であり、漁業をはじめ、水産加工業が集積されて発展してきた地域です。こうした水産業・漁業を主体とする地域にとって、安全に食料を市場に送り出すことは最も大切な機能で、その基点となるのが冷凍倉庫などを含む保管庫です。

今回の震災においてこうした保管庫も大きなダメージを受けました。現在は回復の兆しを見せていますが、以前の姿を取り戻すにはまだ時間を要します。

私たち三和グループは東北に営業所を構え事業を展開する一企業として、東北の主産業である水産業・漁業の復

興支援を大きな柱に据え、一刻も早く東北全体が活気ある町に戻れるよう、本業である建材事業を通じて地域を応援したいと考えています。



三和シャッター工業
東北営業部 復興チーム
担当課長 佐藤 智樹

現場の声

復旧・復興のためには、全国各地から施工の応援、各工場の迅速対応が欠かせません。

三和シャッター本社や全国の工場、またグループの力を結集して、被害を受けた東北各地の皆さん、中でも裾野の広い水産業のいち早い復興を願い、東北が活気を取り戻すべくこれからも頑張りたいと思います。

節電の取り組み

2011年度は、温暖化防止策としてのエネルギー節減に加え、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故などで、より一層の節電が求められました。三和グループはオフィスでの節電に取り組むほか、生産部門でも通常の省エネ対策に加え、さらなる省エネ、節電のための取り組みを推進しました。

▼生産現場における取り組み

三和シャッター工業は工場の省エネルギー化をさらに推進するため、設備機器の見直しを行っています。2011年には北関東の足利工場と太田ドア工場の照明を、LEDやHF蛍光管、メタルハライドランプなど省エネ性能が優れたものに交換しました。また、消費電力が高い旧式のコンプレッサーを省エネ効果の高い、新しいタイプの製品に順次更新しています。

このような見直しにより、照明で30～40%、コンプレッサーで30%の消費電力低減が見込まれます。そのほか、静岡工場や岐阜工場で同様の設備機器更新に着手しています。今後は、全国の工場で省エネ促進のためのルール作りを行う予定です。

▼オフィスにおける主な取り組み

三和シャッター本社では、従来よりCO₂削減の観点より、省エネ活動を推進してきましたが、震災以降の電力需給の逼迫に鑑み、さらなる節電に取り組まれました。

具体的な取り組みとして、照明器具の間引き、エアコン設定温度の維持など、業務に支障のない範囲できめ細かい活動を展開しています。また、離席時にはパソコンの画面オフを徹底したり、エレベーターの上りは2階、

下りは3階までエレベーターを使わない「2UP3DOWN」運動を励行するなどして、2011年7～8月の板橋本社での使用電力量は前年比約20%の節電効果を得ました。



2UP3DOWN運動

■節電の主な取り組み

工場	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会社を含む製造のシフト勤務の2交代制 ・電力使用量を常時パソコン画面で確認できるシステムで管理し、電力使用量がボーダーラインに近づくとパトライトや警報で知らせ、単体で稼働している設備やエアコンを停止 ・電気のスイッチを一度に入れず、段階的に入れる ・照明の間引
事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・冷房・暖房温度の設定 ・毎週水曜日は、17:30に空調を停止 ・事務所内の照明間引き ・始業時間の8:30までは、照明をつけない ・各自の節電、離席時のPC画面オフ

TOPICS

復興の願いを込めて「奇跡の一本松」のレリーフを刻んだ 南部鉄製の復興祈念ポストを寄贈

復興に全力で取り組む東日本大震災の被災地に、三和タジマができることはないか——。そんな想いから、復興祈念ポストの製作はスタートしました。幾多の困難を乗り越え完成したポストは2011年12月15日、岩手県陸前高田市にある郵便事業株式会社 東北支社陸前高田支店の仮設社屋前に設置されました。

三和タジマと郵便ポストを結ぶ縁が 寄贈プランを生む

郵便事業株式会社に南部鉄を用いた郵便ポストを寄贈するという話が持ち上がったのは、震災発生から4か月後の2011年7月のことでした。激甚な被害をもたらした未曾有の震災を目の当たりにして、「三和タジマにできることはないか」と考えていたところ、郵便事業株式会社からこのご提案をいただき、一日も早く被災地が復興するよにとの思いを込めてポストを製作し、寄贈することにしました。

三和タジマには、「郵便創業100周年記念ポスト」(1971年)をはじめ、記念ポストをいくつも製作してきた歴史や、南部鉄を用いた制作物をたびたび手がけてきた歴史があります。このような「縁」が今回の話に繋がったと考えています。

復興祈念ポストの特徴

上部の笠は「日の出」をイメージし、鮮やかなグラデーション塗装を施しています。筐体には岩手県奥州市で铸造された南部鉄を使用。前面には「高田松原」に唯一残った「奇跡の一本松」と、宮沢賢治の「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」という詩を刻み込みました。側面には、この詩の全文を刻印しました。



コンクリートと一体型で完成



正面パネルの木型



铸铁铸造工程

困難を一つずつ解決しながら ゴールに向かう

何よりも苦心したのはデザインです。「被災地に“希望”を与えられるデザイン」をテーマに、妥協することなく検討を繰り返し、ようやく本案が決定しました。納期の問題も立ちはだかりました。短納期に対応してもらえる鋳物屋が見つからずに右往左往しましたが、身内に震災の犠牲者がいるという東北のある鋳物屋さんから「何とかやってみましょう」と返事をいただくことができ、ようやく見通しが立ちました。



除幕式の様子

【概要】

- 提案・製作期間：7月上旬～12月初旬
- 設置開始日：2011年12月15日
- 設置場所：日本郵便 陸前高田支店 竹駒郵便局
- 重さ：380kg(床コンクリートを除く)

現場の声

関係者が力を尽くした結果、予定通りに納品することができました。完成したポストの姿を眺めた時は、とにかく「間に合って良かった」という気持ちで一杯でした。



レリーフ部铸造工程

特集

「オーバーヘッド ドア コーポレーション (ODC)」の CSRの取り組み

従業員の活力向上が ステークホルダーとの持続的共生へと 結びつく

北米を拠点に建材製品を製造・販売するオーバーヘッドドア コーポレーション (ODC)は、お客様・ビジネスパートナー・従業員などのステークホルダーとともに持続的に成長していくことが最も重要な課題と考えています。

その一つの施策として、従業員の活力向上がお客様品質の向上につながると考え、従業員の安全・健康・教育研修に力を入れています。それが従業員の世代や職種・地域を超えた総合力として発揮され、ステークホルダーとの持続的共生へと結びつくと考え活動しています。

従業員 安全・健康

健康の維持・改善を目指す多様な施策・制度を展開して職場を活性化 労災ゼロを実現する「安全の文化」を醸成するために努力を積み重ねる

組織が活力を持って事業を展開し、持続的成長を実現するため、従業員の安全・健康の維持・改善を積極的に推進しています。

健康の維持・改善を促進する施策には、情報・サービスの提供があります。たとえば健康診断を毎年必ず受けてもらうためにヘルスクエア割引を実施しているほか、減量や禁煙プログラムへの参加推奨や、必要な運動量を確保するためのガイド情報を提供しています。そのほかにも多様な健康フェアを企画・実施して、従業員の健康意識向上を図っています。

また、生活習慣病の予防と改善にも注力しています。特に深刻な成人病を引き起こすメタボリック症候群を早期発見・予防するための意識づけや自己管理方法の指導を行っています。

このように健康に関わる施策を幅広く実施した結果、2011年の医療コストは前年比5%減となりました。



健康フェアの様子

また、職場の安全と製品の品質は相互に深く関わっています。従業員一人ひとりが高い安全意識を持ち、職場環境の安全性が確保されてこそ、製品の品質を確かなものにできるというのがODCの考えです。

そこで、従業員全員が労災による傷病者を完全に「ゼロ」にできると信じ、「安全の文化」を職場に醸成する方針を2011年に打ち出しました。労災ゼロを目指して安全の文化を定着させるための施策としては、従業員が関係したアクシデントを分析し、改善策を立案、同様の労災防止につなげていくという労働安全のPDCAプロセスがあります。このような取り組みによって、2011年度には主要な安全性指標がすべて改善され、また災害補償費などのコストが大幅削減されるなどの成果がありました。

■ 労働災害発生状況

	2009年度	2010年度	2011年度
労働災害発生件数	95件	180件	168件
休業度数率	1.01%	0.93%	0.84%

※2010年度以降の件数増加は、2009年度12月にウエインダルトン社買収によるものです

担当者の 声

会社が従業員の健康と安全に積極的にかかわる姿勢を示したことにより、社員もまた、真摯に業務に取り組むようになったと感じます。特に健康管理に関する情報やサービスの提供は好評で、社員からの問い合わせ数が増えたほか、健康改善プログラム利用者の喜びの声をたびたび耳にしています。



オーバーヘッドドア コーポレーション (ODC)の概要

1921年設立。世界で初めてオーバーヘッドドアと電動開閉機を開発・製造した米国ドア建材のトップメーカー。1996年に三和シャッター工業が子会社化。「Overhead Door」及び「Wayne Dalton」ブランドで住宅・商業用ドアを製造・販売・施工する「Access System Division」、開閉機を扱う「Genie」など5つの事業部門により製品・サービスを展開しています。

従業員
人材育成

学びの文化を根付かせて
組織力を強化する
オーバーヘッドドア大学

高品質な製品をお客様に届けるためにはまず、従業員が十分に能力を発揮し、活き活きと働ける職場環境を実現することが大切です。

そこで社内教育体系を見直し、人材育成の中核機関となる企業内大学「オーバーヘッドドア大学」を開校しました。同大学は、従業員一人ひとりの成長を組織の成長に繋げることを理念とし、従業員の能力開発と次世代リーダー育成を目的とする多様な講座を提供しています。

講座は社内LANを活用したeラーニング形式で提供されており、部署や職位が異なる多数の従業員が、それぞれ最善の形で受講できるようになっています。2011年には、生産方式や品質管理の基礎講座をはじめ、財務知識、リーダーシップ講座など、幅広いプログラムが提供され、約1,200人の従業員が1人平均10時間以上受講しました。



オーバーヘッドドア大学のロゴマーク

受講者の
声

学びの環境が整備されたことをきっかけに、将来のキャリアアップのために技能を向上したいと考えて受講しました。社の人材教育体系を明確に把握できることはとてもいいと感じています。マルチメディアを活用したプログラムは学びやすく、集中して講義を受けられました。

お客様
品質

すべてのお客様に
信頼される高品質な製品を
実現するための取り組み

ODCの事業部門のひとつAccess System Division (ASD)は、常に製品と生産工程をチェックして改善を行っており、下記事例のように着実な成果を上げています。

また、品質追求のためには生産工程の見直しが必要であると考え、ODCネブラスカ工場で新生産方式の導入を進めています。これまでに工程の効率化や無駄をなくすことで成果を得ており、2011年には州当局が実施している表彰制度の最優秀賞(2011年)を受賞しました。

品質向上の主な改善事例

- ・シャッターケースの形状を丸ケース型に変更
- ・スプリングフィルターを防音効果の高い円形タイプに変更し、開閉音を軽減
- ・梱包や積み込み方法を改善して運搬時の損傷削減
- ・高品位成形が可能な新ロール成形機を導入
- ・一部部品の塗装を液状塗装から新基準である粉体塗装に変更



2011年ネブラスカ州製造部門・年間最優秀賞受賞時の記念写真

三和グループの CSR

基本方針

三和グループが社会に信頼される企業であり続けるため、従来のCSR活動を継続・強化するとともに、社会との持続的共生を目指した取り組みを積極的に推進します。

CSR活動の考え方

私たちの使命である「安全、安心、快適を提供することにより社会に貢献する」を実現し、持続的成長のために企業価値を高めることが三和グループのCSRビジョンです。

ビジョンを達成するには、多くのステークホルダーと価値観を共有し、連携・協力していくことが不可欠であり、中でもCSRを実践する従業員一人ひとりの理解を深めることが必要です。三和グループは人を起点とする経営を実践し、企業品質を高めながらCSR活動を展開。各ステークホルダー満足の見点から、テーマおよび重点課題を定め、各部門が連携して取り組んでいます。

■ CSRビジョンと3つの重点テーマ

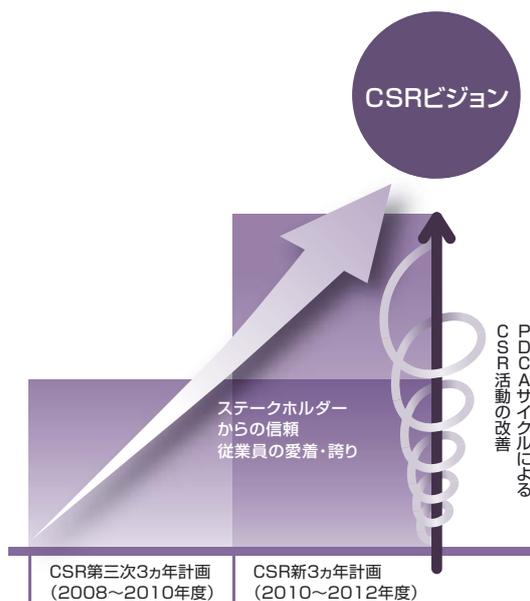


中長期的視点で取り組むCSR経営

三和グループでは、中長期視野でCSR経営を推進し、さらなる事業の成長を目指しています。

2010年度には、経営計画「新3か年計画」と連動させたCSR新3か年計画(2010～2012年度)を策定、これに基づき目標達成に向けて活動を推進しています。

お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼されるグローバル企業を目指すとともに、また従業員からは誇りと愛着を持てる企業となれることを目指し、誠実にPDCAサイクルを回し、CSR活動を継続していきます。



CSR推進体制

三和グループが一体的にCSR活動を展開していくため、三和ホールディングスのCSR推進部を事務局とする「グループCSR推進会議」を年4回開催しています。

この会議では、グループ全体のCSR活動の推進に取り組んでいくための考え方やグループ横断的な取り組みについての検討を行い、CSR全体のマネジメントを行います。

また、グループ各社には、現場と一体となったCSR活動の企画・推進を図る「CSR推進委員会」を設置。社長が議長、事務局を総務部門が担当し、活動を推進しています。

CSR新3カ年計画 2010～2011年度レビュー

		重点課題	2010～2011年度の取り組み
誠実で透明な 企業活動による 信頼向上	コーポレート・ ガバナンスの強化		企業理念を毎月読み合わせ従業員へ浸透、経営と執行の監視体制、内部監査、内部通報窓口の設置、内部統制システムの構築・運用、情報開示などによりグループガバナンスの向上推進
	コンプライアンス 体制の構築		毎年11月のコンプライアンス月間には、コンプライアンス意識の浸透と行動の徹底を図るとともに、コンプライアンス研修をグループ各社の管理職および新任管理職に実施。また、月刊CSRレポートにコンプライアンス教室を連載
	リスクマネジメント 体制の構築		緊急事態の発生を迅速に把握し、適確な対応ができるように危機管理規定を見直し。リスクの洗い出しを行い、グループ統一のリスクとしてBCPの取り組みを開始
従業員・協力業 者・施工技術者 の活力向上	人材育成		グローバル人材育成プログラムとして、海外研修、語学研修、短期海外研修を実施。お客さまとの接点である、営業事務職員のためのCS向上研修を実施
	労務環境の改善		年次有給休暇の計画的付与日数を2日→3日へ増加。本社板橋地区では分煙化。個を重視した異動範囲による職群制度を積極的に運用。 メンタルヘルス対策として、管理職向けの研修やEAP(従業員支援サービス)の対象地域を拡大
	施工技術者の 活力向上		施工研修センターによる、製品取付資格制度および保守点検資格制度を制定・実施し、施工力を総合的に向上
お客様・社会の 満足度向上	品質保証体制 の徹底		施工品質の向上を図るべく、施工技術者の技術研修を実施。カスタマーセンターによる製品別修理受付状況を分析し、原因別に対応
	社会貢献活動 への取り組み		東日本大震災の被災地およびタイの洪水に義援金を贈呈するとともに、三和グループ社会貢献倶楽部から東日本大震災の被災地および福祉活動を行なうNPO法人などへ寄付。また、地域クリーン活動については継続実施
	環境保全活動 への取り組み		改正省エネ法を踏まえ、2009年をベンチマークとし年1%以上のエネルギー消費原単位の低減を環境目標として、グループで取り組むことを決定。2011年度は国内全社において目標を達成

3Cの重点テーマ

社内啓発活動の一環として
グループ内へCSRレポートを配信

2004年より「CSRレポート」を毎月、全従業員に配信しています。

レポートはグループ内や一般社会でのCSR活動を紹介することにより、従業員のCSRに対する意識および知識を高めてもらうために発行しています。

2010年からは日常に近いCSRを意識した、コンプライアンス教室の連載をはじめ、三和環境の日などグループ内のCSR行事や活動の様子を紹介し、CSRを浸透させています。



活動報告

01

お客様に満足いただける 商品・サービスの提供

基本方針

三和グループは商品やサービスを通じ、安全・安心・快適をお客様に提供し続けることが、お客様からの信頼につながると考え、商品開発からメンテナンスに至るまで、いつでもお客様の視点に立って事業を行うことを心がけています。

お客様の安全・安心を第一に開発に取り組む

防災への意識が高まる中、三和グループではより安全・安心な商品をお届けできるよう、耐震・防火・防水対策などの各種評価試験を試験センターで行い、日々研究・開発に取り組んでいます。

また、安全・安心な商品を確認なものにするために実施している「安全品質点検週間(年2回:5、11月)」では期間中、グループ全従業員が安全点検週間のワッペンを着用し、すべての業務プロセスにおいて製品の安全性に関する点検を行うことで安全基準遵守を徹底しています。

お客様満足度向上を目指して カスタマーセンターを強化

三和シャッター工業は、カスタマーセンターをお客様との貴重なコミュニケーションの場であると考えています。カスタマーセンターに寄せられるお客様の声はすべてデータベース化しており、その解析データを「カスタマーレポート」として発行、全社で共有してお客様満足度の向上に役立てています。恒久的な課題に応答品質の向上があり、常時見直しを行っています。

2011年には、FTS(フルタイムサービス)の拠点を東京、大阪の二拠点に再編成し効率化したことにより、オペレーターの応答品質を向上しました。そのほか、修理受付用のフリーダイヤルを携帯電話でも利用できるよう見直しました。

営業所窓口のサービスをレベルアップする CS向上研修

全国の営業所課で働く事務員は、三和シャッター工業とお客様とのコミュニケーションの第一線に立つ重要な役割を担っています。そこで、2012年4月にプロの講師によるマナー研修を開催しました。対象は東日本の全営業所課の事務員で、お客様への対応の基本からトラブルの対処法まで、ロールプレイングを用いた実践的プログラムが実施されました。特に営業所課では電話対応が中心であることから、お客様の顔が見えない状況下でも満足いただける対応に重点を置き、対応品質のレベルアップが図られました。今後は研修の対象を西日本にも広げていく予定です。



参加者の声

マナーについてしっかり教わったことがなく、お客様にどのように対応すればいいのか、わからないことがよくありました。今回の研修で状況に応じたふるまいを細かく指導してもらったことで、自信を持って対応できるようになりました。

ロールプレイングの様子

お客様の要望に応える多品種化を推進

三和シャッター工業は、お客様のご要望にきめ細かく対応していくことが、「安全・安心・快適」という使命達成に繋がると考え、多品種化を推進しています。

国内市場で多品種化を拡大するには販売環境の見直しが必要であり、国内子会社間では連携を強化し、地域に密着した営業展開を図るため、「統括営業所」を設置しました。

また、多品種化を推進するにあたり、多様な製品の魅力をお客様にお伝えするため、タブレット端末を活用した新しい形の営業ツールを導入し、お客様サービスのレベルアップを図っています。お客様からは「とてもわかりやすい」「動画はカタログでは伝わらない商品の“動き、開閉速度、開閉音”がわかりイメージがつかみやすい」と好評です。



タブレット端末に収録したデジタルカタログによるプレゼンテーション

TOPICS

三和グループ商品の提供価値「安全・安心・快適」が盛り込まれた主な製品群(2010～2012年度発売製品)

スムーズで安全なバリアフリー玄関引き戸「スムード悠楽(ゆうらく)」

少子高齢化が急速に進行する中、高齢者にとって快適な住環境のあり方に関心が集まっています。三和シャッター工業もバリアフリーを重要なテーマと考え、近年増加しているシニア向けマンションや住宅型老人ホームでの利用を想定した玄関引き戸「スムード悠楽(ゆうらく)」を開発しました。バリアフリー設計と、わずかな力で開閉できる機構の採用により、高齢者や車椅子利用者が安全、快適に出入りできます。

バリアフリー設計

フラットなくつずりで車いすでの出入りにも最適

防火性能

高齢者の生活に潜む火災リスクに備えた防火性能を追求



安全にこだわったデザインでキッズデザイン賞を受賞した「ピーターパン&パンジー」

幼稚園、保育園など、小さなお子様を利用する施設のトイレでは、まだトイレに慣れていないお子様もいることを想定した安全性の高い設備が必要です。こうした発想で開発されたのが園児用トイレブース「ピーターパン/パンジー」です。ドアとパネル間にすき間を設定し、指を挟まない構造に設計されているほか、ドア部分は角に丸みを持たせるなど、安全性に配慮しています。

また、トイレルームを明るく演出するカラフルなデザインが特徴です。同製品は優れた安全性とデザインが評価され、第5回キッズデザイン賞(キッズセーフティ部門)を受賞しました。

■ピーターパン

すき間を設けて指はさみを防止



角を丸めて安全に

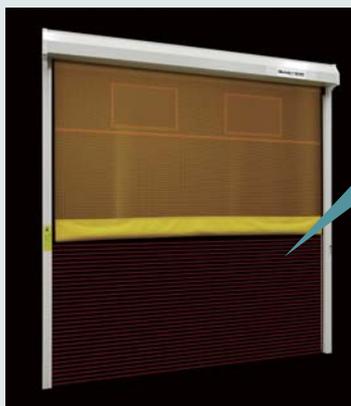


作業現場の安全に配慮した高速シートシャッター「クイックセーバーS13」

工場や倉庫などで高速シャッターやシートシャッターの需要が高まっていますが、三和シャッター工業では2012年発売の「クイックセーバーS13」にさらなる安全性の向上を図り、障害物検知装置に多軸エリアセンサを設定しました(オプション設定)。見えないラインセンサの壁が安全性をアップします。

その他にも、ボトム部分の衝撃緩衝ゴム、レールからシートが外れて衝撃を吸収する「ブレイクアウェイ機能」など、作業時の事故を想定した安全機構を多数採用しています。

また、クイックセーバーはエコマークにも認定されており、環境にも配慮した製品です。



写真はイメージです

H2,000mmまで
センサ検知対応可能

活動報告

02

従業員とともに

基本方針

三和グループでは、従業員一人ひとりの人間性を尊重し、それぞれの持つ能力や専門性を存分に発揮できる、活気ある職場づくりを推進しています。従業員一人ひとりの活動が、すべての活動の原動力であり、誰もが充実感をもって活き活きと働ける職場環境が社内の活性化につながり、事業の持続可能性を高めていくことにもつながると考えています。

安全・健康
の基本的考え方

従業員の安全と健康維持・改善を経営課題の一つに掲げ、様々な施策に取り組んでいます。

多様性
の基本的考え方

多様な人材が互いの価値観を認め合い、様々な能力を発揮できる、働きやすく公正な職場環境づくりを目指しています。

人材育成
の基本的考え方

従業員の育成が企業発展の原動力になると捉え、能力開発と人材育成に積極的に取り組み、全従業員の能力向上に努めています。

管理者向け研修、EAP拡大など
メンタルヘルス対策を強化

三和シャッター工業はメンタルヘルス対策を推進し、メンタル不調の早期発見、早期対処に努めています。特に管理職を主体とするラインケアの充実に力を入れており、管理職向け研修や総務課向け研修を随時実施しています。

また、これまで提供していたEAP(従業員支援サービス)の対象地域を新宿地区と板橋地区に拡大しました。さらにメンタル不調により休業した従業員のための復職支援プログラムを見直し、主治医の判断を産業医が迅速かつ正確に把握できるように改善しました。

職場環境を改善する医療・福祉用折戸設置

障がいのある方の雇用を社会的責任と考え、その雇用促進に努めている三和グループは、職場環境の改善にも取り組んでいます。2010年には三和シャッター工業本社のトイレに医療・福祉施設用折戸「カイラクエン」を設置し、従業員の快適性向上を実現しています。「カイラクエン」は三和シャッター工業の自社製品で、ユニバーサルデザインの製品です。扉の出寸法が小さくなり、車椅子を利用されている方でもスムーズに扉の開閉を行います。

今後も三和グループは、誰もが快適に働くことができる職場作りを推進し、改善に取り組んでいます。



板橋本社に設置された折戸「カイラクエン」

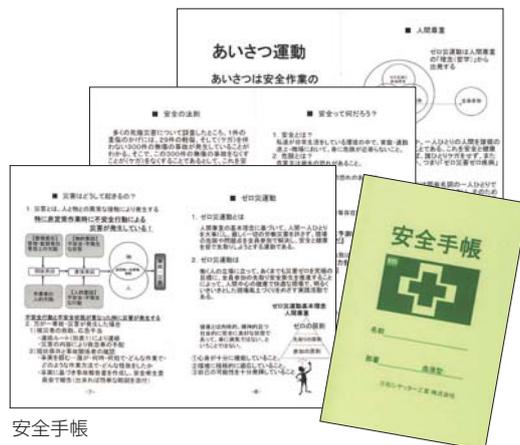
開発者の
声

「カイラクエン」は、力の弱い人、車いすの利用者に無理のかからない動作で出入りできるよう、押しでも引いても開けられる構造としています。安全性を高めるために、戸先や連結部にはゴムをつけて、ゆるやかな開閉と併せてケガのないよう防止策を講じています。

リスクアセスメントを実施して安全管理体制を強化

三和シャッター工業は、現場に潜むリスクを洗い出して防止策に繋げるリスクアセスメントに取り組んでいます。2011年には本社の担当者が講師となり、各地の工場で研修会を実施しました。その中で、従業員や協力業者が中心となってリスク洗い出しや防止策立案を行いました。従来、工場ごとに行っていたリスク分析や防止策立案の手法を統一し、情報を共有することにより、安全管理の実効性が高まると期待しています。

また、安全活動の教本「安全手帳」を全国の工場に配布して安全意識の向上を図っていますが、その内容を随時改訂し、従業員が安全に対する高い意識を常に保持するように努めています。



安全手帳

TOPICS

真のグローバル展開に向け、シナジーを追求する人材の育成

グローバル事業展開のさらなる推進を目指す三和グループにとって、人材育成は重点テーマの一つです。成長を実感できる研修やプログラムによって従業員の成長を促し、将来のグローバル経営を担う幹部候補生の育成に取り組んでいます。

三和グループは、「海外研修」と「語学研修」を2本柱とする新たな研修制度を2010年に制定し、本格的なグローバル人材育成の取り組みをスタートしました。

海外研修は、海外グループ会社ODC(米国)への1年間の出向を通じてグローバルな視点とコミュニケーション能力を身につけるプログラムです。2010～11年に第一期生が研修を行い、2012年には第二期生が研修に出発しました。

語学研修は、グローバルビジネスに必要な語学力を有する社員を育成するためのプログラムです。2010年に英語研修を実施、2011年には中国語研修を新規開講しました。

2012年には新たに短期海外研修を制定し、さらなる充実を図っています。

グローバル人材育成の2本柱

海外研修制度

論文、役員面接などで選抜された研修参加者3名が、ODCに1年間出向します。現地では大学に通学するほか、ODCでの社内研修、展示会視察や顧客企業訪問などの社外研修を行います。

語学研修制度

英語と中国語の研修があり、選抜された参加者(英語30名、中国語20名)が半年間研修を行います。eラーニングでビジネス英語を学ぶほか、集合研修で異文化コミュニケーションを学びます。



短期海外研修制度

1コース3名の参加者が11～12日間にわたり海外研修を行います(2012年はベトナムと中国・上海の2コース)。語学やグローバルビジネスを学ぶほか、現地の三和グループ企業を訪問します。



海外研修参加者の声

左から及川氏、近藤氏、研修生指導担当のクリス・マノリスVP、林氏

●及川洋紀(SANWA USA INC. アドバイザー)

海外研修で視野が格段に広がり、様々な部署の方たちとコミュニケーションを重ねることで、これまでと違った角度から物事を捉えるグローバルな視点を得ることができました。

●近藤裕介(ノボフェルム上海 営業経理)

現地ODCの戦略立案は各部門担当者レベルまで細分化されており、個人の管理目標となっています。三和グループがよりグローバルに成長するためには、グループの経営資源を標準化した管理体制の最適化が大切だと実感しました。

●林恒司(三和シャッター 購買部)

端的に表現できる力やコミュニケーション能力が必須だと感じました。国内での営業経験と今回の海外研修の経験を活かし、三和グループのさらなるグローバル推進に貢献していきたいと考えています。

活動報告

03

三和グループを支える
施工技術者・調達先との関わり

基本方針

三和グループでは、お客様との重要な接点である施工技術者と協力・連携して、お客様に満足される商品・サービスを提供します。また、調達活動においては法令を遵守し、公平・公正の原則に基づき、調達先企業との相互信頼を構築。相互研鑽を図り、ともに発展することを目指しています。

施工力を総合的に向上する製品取付資格制度と製品事故を未然に防ぐ保守点検資格者制度を制定

三和シャッター工業は、施工技術者の技術向上・施工品質および製品安全の確保を目的とする新たな施工技術者育成・資格制度を立ち上げ、2011年4月から実施しています。資格制度の特徴は、取り付けに資格が必要な99製品を4カテゴリーに区分し、それぞれに最適な認定方法を定めていることです。これにより、技術レベルが異なる多様な製品の取り付けについて、適切な資格認定が行われます。

また、99製品は31グループに分類されており、ある製品の資格を保有していれば、同グループ内に属する他製品の施工も行うことのできる資格グループ制を採用しています。これにより、施工技術者の多能工化を促進しています。

また、新たな保守点検資格制度を2012年6月に導入



施工技術者研修の様子

参加者の声

受講したことで、施工手順の他にも製品ごとに持つ特徴やポイントを理解でき、安全性についても理解を深めることができました。

しました。これは、安全に対する有効性を正しく判定できる点検方法を確立し、点検不備による製品事故、故障の発生を防ぐための制度です。資格対象者はサービスマン・施工技術者で、社内研修後に所定の考査を実施するとともに、JSDA（(社)日本シャッター・ドア協会）が定める防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格を取得することが資格認定条件になっています。

調達先企業と相互研鑽を図り、共存共栄によりともに発展

1973年に発足した調達先の自主的組織である三和会は、2008年に3部会構成に再編成されました。新生三和会による「三和会本部定時総会」は回を重ね、2012年6月に第5回総会が開催されました。この中で、「製造委託部会」「購買部会」「販売協力部会」による2011年度総括と2012年度活動方針が発表されるとともに、各部会における活動の成果として、すぐれた支部・ブロック・会員の方々を表彰しました。成果を生んだ活動事例については水平展開を図っています。



2012年6月の三和会定時総会での三和会会長 入江氏

「三和会」の主な活動テーマ

- 品質改善活動
- 生産性向上、コスト低減活動
- 安全推進活動
- 環境保全活動
- 販売協力活動他

三和会
入江会長の
声

2011年は日本が一刻も早く東日本大震災の被害から立ち上がって復興できるように全員一丸となって活動してまいりました。2012年は三和グループの「新3ヶ年計画」の最終年です。これを達成するため、我々三和会としても環境の変化に柔軟に対応できる強い集団へと成長するべく活動しています。

活動報告

04

地域社会と共生しながら
社会に貢献

基本方針

三和グループは、各地に事業所・営業所を展開し、お客様をはじめとするさまざまな方々との接点を持つ地域社会の一員としての役割・責任を負っています。こうした状況を踏まえ、地域に密着した従業員参加型の活動を基本として、地域社会に貢献していくことを目指しています。

環境マネジメントの礎となる地域クリーン活動

三和グループは環境マネジメントを推進するために、全従業員が環境保全活動に取り組む「三和環境の日」(毎年6月10日)を2007年に制定し、6年にわたって実施しています。当日は、グループ従業員が事業所周辺などでペットボトルや空き缶、吸殻、ゴミなどを拾い集めるクリーン活動を

行っています。2012年度にはグループ全体で約1,500人が参加しました。



参加者の声

「三和環境の日」には、事業所周辺のゴミ拾いをしています。最近では近所の方に私たちの活動を知っていただいたようで、「ご苦労様」「ありがとう」と声を掛けてもらえるようになりました。これからも、進んで活動に参加したいと思います。

タイ洪水被害に対し義援金贈呈

三和グループでは、2011年7月からの豪雨により、タイ北部、中部地方を中心として発生した洪水被害に対し、被災地および被災された方々への支援として、在京タイ王国大使館に100万円の義援金を寄贈しました。

また、タイの海外グループ会社「サンメタル社」の従業員に対するグループ内募金を実施し、被災したタイの従業員に対し配付しました。

TOPICS

マッチングギフト方式の寄付活動で
実績を重ねる社会貢献倶楽部

三和グループ社会貢献倶楽部は三和シャッター工業創立50周年を機に、三和グループ社員の自発的な意思による具体的な社会貢献活動の一つとして、2006年11月に創設されました。寄付活動では、会員が毎月給与控除により拠出する寄付金(1口100円)と同額を会社も寄付金として拠出(マッチングギフト方式)し、それらを合わせた金額を運営委員会で選定した団体に寄付しています。

2011年度は8つの団体に対して370万円の寄付をしました。寄付先団体からは「難病の子供たちの夢を叶え、喜ばせてあげることができます」など、感謝の言葉が多数寄せられています。



CSR推進部 梅田宏

■ 社会貢献倶楽部事務局担当者の声

三和グループ社会貢献倶楽部会員のみなさん一人ひとりの善意が集まって大きなものとなり、寄付先団体を通じ、数多くの方へ支援していることを実感しています。

(左)公益財団法人 日本盲導犬協会 飯田篤史氏
(右)三和ホールディングス 三宅麻子

■ 主な寄付金贈呈先

- ・NPO法人ファミリーハウス
- ・NPO法人チャイルドライン支援センター
- ・NPO法人アトピizzi 地球の子ネットワーク
- ・あしなが育英会
- ・公益財団法人日本盲導犬協会
- ・公益財団法人がんの子どもを守る会
- ・一般財団法人メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン
- ・社会福祉法人中央共同募金会

活動報告

05

ものづくり企業の責任として
取り組む環境への配慮

基本方針

三和グループ環境方針に基づき、地球と共生しながら持続可能な社会の実現に貢献できるよう、事業活動のあらゆる側面で環境保全に取り組んでいます。

環境保全の推進

三和グループは、「三和グループ環境方針」の達成に向け、三和ホールディングスが主催する「グループCSR推進会議」を中心に、事業活動における環境負荷低減を推進し、国内グループ各社に展開しています。

特に、国内事業規模の大半を占める三和シャッター工業では、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、環境法規制の遵守を徹底するとともに、環境目標を設定し、環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。

主な環境目標取り組み

環境目標 / 2011年度環境目標値		2011年度の主な実績																									
創る	環境配慮設計の定着 (目標値) 研修実施と運用の徹底	環境配慮設計の実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開発計画総テーマ数</th> <th>環境配慮項目有</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>168件</td> <td>77件</td> <td>46%</td> </tr> </tbody> </table>		開発計画総テーマ数	環境配慮項目有	割合	168件	77件	46%																		
	開発計画総テーマ数	環境配慮項目有	割合																								
168件	77件	46%																									
		●教育研修 開発部門内での勉強会を2012年3月実施																									
減らす	物流エネルギー消費原単位の年1%以上削減 (目標値) 2006年度比5%低減 ※原単位: 燃料使用量(kl) / 工場出荷金額(百万円)	物流効率の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>2006年度</th> <th>2009年度</th> <th>2010年度</th> <th>2011年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料使用量(kl)</td> <td>5,649</td> <td>3,774</td> <td>3,722</td> <td>4,132</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原単位</td> <td>目標</td> <td>BM</td> <td>0.0614</td> <td>0.0614</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0.0647</td> <td>0.0617</td> <td>0.0602</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>-</td> <td>4.7</td> <td>7.0</td> <td>9.6</td> </tr> </tbody> </table>		区分	2006年度	2009年度	2010年度	2011年度	燃料使用量(kl)	5,649	3,774	3,722	4,132	原単位	目標	BM	0.0614	0.0614	実績	0.0647	0.0617	0.0602	低減率(%)	-	4.7	7.0	9.6
	区分	2006年度	2009年度	2010年度	2011年度																						
	燃料使用量(kl)	5,649	3,774	3,722	4,132																						
	原単位	目標	BM	0.0614	0.0614																						
実績		0.0647	0.0617	0.0602																							
低減率(%)	-	4.7	7.0	9.6																							
施設エネルギー消費原単位の年1%以上削減 (目標値) 2009年度比2%低減 ※事業所原単位: 燃料使用量(kl) / 延床面積(m ²) ※工場原単位: 燃料使用量(kl) / 工場出荷金額(百万円)	エネルギー消費量と消費効率の推移(事業所) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>2009年度</th> <th>2010年度</th> <th>2011年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料使用量(kl)</td> <td>3,064</td> <td>3,045</td> <td>2,734</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原単位</td> <td>目標</td> <td>BM</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0.0250</td> <td>0.0245</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>10.8</td> </tr> </tbody> </table>		区分	2009年度	2010年度	2011年度	燃料使用量(kl)	3,064	3,045	2,734	原単位	目標	BM	-	実績	0.0250	0.0245	低減率(%)	-	-	10.8						
	区分	2009年度	2010年度	2011年度																							
燃料使用量(kl)	3,064	3,045	2,734																								
原単位	目標	BM	-																								
	実績	0.0250	0.0245																								
低減率(%)	-	-	10.8																								
		エネルギー消費量と消費効率の推移(工場) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>2009年度</th> <th>2010年度</th> <th>2011年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料使用量(kl)</td> <td>5,825</td> <td>5,909</td> <td>6,239</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原単位</td> <td>目標</td> <td>BM</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0.1512</td> <td>0.1589</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1.9</td> </tr> </tbody> </table>		区分	2009年度	2010年度	2011年度	燃料使用量(kl)	5,825	5,909	6,239	原単位	目標	BM	-	実績	0.1512	0.1589	低減率(%)	-	-	1.9					
区分	2009年度	2010年度	2011年度																								
燃料使用量(kl)	5,825	5,909	6,239																								
原単位	目標	BM	-																								
	実績	0.1512	0.1589																								
低減率(%)	-	-	1.9																								
買う	グリーン調達基準の整備とグリーン調達の推進 (目標値) グリーン調達基準の運用開始	購買先へのグリーン調達要請の進捗状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>本社購買品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総購買先</td> <td>267</td> </tr> <tr> <td>回答数</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>回答率</td> <td>56%</td> </tr> </tbody> </table>		区分	本社購買品	総購買先	267	回答数	149	回答率	56%																
	区分	本社購買品																									
総購買先	267																										
回答数	149																										
回答率	56%																										

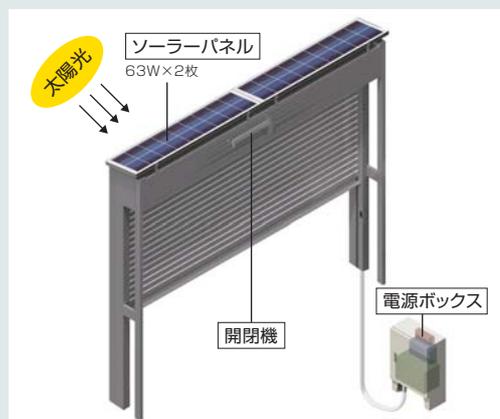
TOPICS

三和グループの主な環境配慮製品

自然エネルギーでシャッターを開閉する 太陽光発電システム「サンゲートソーラー」

サンゲートソーラーは太陽の自然エネルギーを電気に変換し、シャッターを開閉することができます。

対象となるワイド2,700mmのサンゲートライトの上辺には126W(63W×2)のソーラーパネルが設置され、設置場所による南北の取付向きを決めることで効率よく太陽エネルギーを収集します。また、発電した電力はバッテリーに蓄えられ、災害時の非常用電源としての役割も果たします。



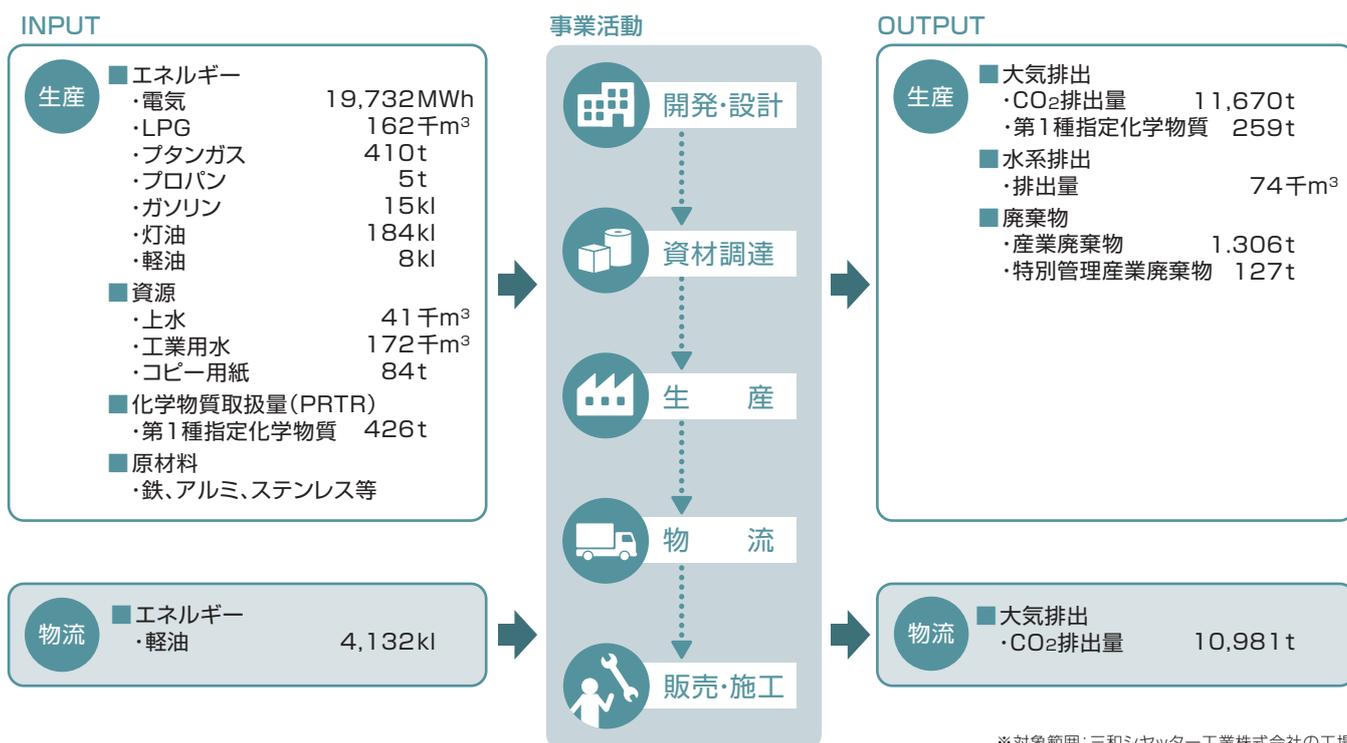
屋上緑化をガレージで手軽に実現する「コフレガーデン」

環境意識の高まりを背景に屋上緑化に関心が集まっていますが、三和シャッター工業は屋上緑化に取り組みたいという事業者や一般利用者の声に応じて「コフレガーデン」を発売。同製品は、土壌と保水マットがパッケージになった緑化ユニットを組み合わせ、対象製品のハウス型ガレージ「カポレージ」の屋上で手軽にルーフガーデンを作ることができる屋上緑化システムです。灌水システムが組み込まれているため、毎日の水やりも簡単です。



ものづくり企業の責任として取り組む環境への配慮

2011年度の事業活動に伴う環境影響



※対象範囲：三和シャッター工業株式会社の工場

活動報告

06

コーポレート・ガバナンス リスクマネジメント コンプライアンス

基本方針

CSR経営を実践しながら企業価値を高め、成長・発展するためには、透明性の高い効率的な経営が必要です。コンプライアンスはその基盤を支えるものであり、倫理・法令遵守のための社内体制の強化・徹底を図るとともに、多様化する社内外のリスクに対応するため、全社横断的なリスクマネジメントを導入し、対策を講じています。

コーポレート・ガバナンスの基本的考え方

三和ホールディングスは、米国をはじめ欧州並びにアジア(中国)にもグループ会社を有するグローバル企業です。世界的に企業間競争が熾烈化する経営環境の中で、公正かつ公平な取引を通じて、企業価値を向上させていくため、透明度の高いコンプライアンスを重視した経営システムを構築すべくコーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

企業統治の体制

三和ホールディングスは、取締役会・監査役会を設置しています。取締役は7名、うち1名が社外取締役であり、監査役は4名、内2名が社外監査役であり、社外取締役および社外監査役を独立役員として指定しています。また、執行役員制度を導入し、取締役会における経営意思決定と執行役員業務執行を分離することにより、経営の効率化と取締役が執行役員業務執行を監督する機能について強化を図っています。

また、当社グループが一体的にCSR活動を展開していくためにグループCSR推進会議を開催し、グループ全体のCSR方針や品質保証体制などを審議しています。

リスクマネジメントの基本的考え方

「事業活動に影響をおよぼす、あるいはそれを阻害する要因」をリスクと定義し、業務の各段階に存在するリスクを事前に発見し、対策を行うことでリスクの顕在化を未然に防止するリスクマネジメントに取り組んでいます。

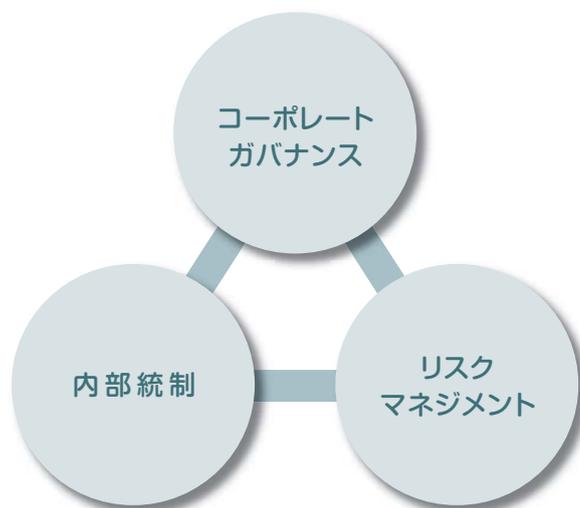
リスクを洗い出し、それを分析・評価の上、重要な要素を抽出し、その対策の立案・実施に取り組み、実施後に対策の評価を行い、必要に応じて対策を継続実施するというPDCAサイクルによりリスクマネジメントを展開しています。

業務の適正を確保する内部統制

内部統制にもっとも期待されている役割は『自浄作用』です。会社の組織内部において、違法行為や不正、ミスやエラーなどが行われることなく、組織が健全かつ有効・効率的に運営されるよう各業務で所定の基準や手続きを定め、それに基づいて管理を行っています。

内部統制は「整えたらそれで終わり」ではありません。コーポレート・ガバナンスやリスクマネジメントの充実を併せて図っていくことで、健全な企業としてグローバル競争を乗り切るための基盤ができると考え、3つの概念を一体化した経営のしくみづくりを常に心がけています。

■3つの概念を一体化した経営のしくみづくり



コンプライアンスの推進

誠実で透明な企業活動を進めるため、グループ内のコンプライアンス体制を支える「コンプライアンス行動規範」を制定し、従業員一人ひとりにこの行動規範の考え方を浸透させることを重点として取り組んでいます。

コンプライアンス行動規範

基本原則・精神

1. 三和グループは、提供する商品・サービスの安全性を最優先に考え事業活動を行います。
2. 三和グループは、コンプライアンス行動規範に反した行為による利益追求は行いません。
3. 三和グループのすべての経営者および管理者は、自ら先頭に立ってコンプライアンス行動規範を遵守し、管下従業員に対して模範となるべく行動します。

行動規範の理解を深めるために、各部門で実際に起こり得る事例と解説を盛り込んだ小冊子「コンプライアンス行動規範&ケースブック」を2006年1月にグループ全従業員に配布（2008年4月に改訂）しました。

また、従業員一人ひとりが日常業務の中で常にコンプライアンスを意識するよう、CSRレポートの発行、毎年11月

をコンプライアンス月間と定め行動規範の読み合わせによる日常行動のチェック、独占禁止法に関する勉強会などにより法令遵守を徹底しています。

また、管理職に対する研修を実施し、意識の向上を図っています。



コンプライアンス
行動規範&ケースブック



コンプライアンス行動規範の読み合わせの様子

現場の声

頭の中では漠然と分かっていても、声に出して読むことで、改めて身近に色々なケースがコンプライアンスにもかかわっていることに気づきました。

日常業務に活かす コンプライアンス研修の実施

コンプライアンス意識を高め、法令違反・ルール違反を撲滅するために、グループ各社の主に管理職を対象とした研修を実施しています。管理職のコンプライアンス意識が高まれば部下の意識も高まってきます。

研修内容は受講者が日常的に接する事象を中心としています。ですからテキストはオリジナルで作成し、受講者アンケートなどを参考に新しい情報に随時改定しています。

本研修を始めてから、法務部門への問合せが増えてきており、コンプライアンス意識が高まった一つの表れと感じています。

コンプライアンス意識を高めるには、この研修を継続して繰り返し実施していくことが大切だと考えています。



2011年関西地区で開催された研修会

受講者の声

- ・改めてコンプライアンスの大切さを再確認しました
- ・普段全く意識していないことが、大きなリスクを抱えていることを認識しました
- ・もっと具体例があれば、理解も深まると思いました

札幌工場

〒061-1496 北海道恵庭市北柏木町3-48

1970年に操業を開始。主に重量シャッター・軽量シャッター・開口部商品などあらゆる商品を生産しています。1999年にISO9001、2007年にISO14001を認証取得しています。

TOPICS

道産材を活かし、地域社会とマテリアルマイルージ*削減に貢献

トイレブースのパネルを製造している札幌工場では、その原材料となる木材にロシアをはじめとする海外からの輸入材を使用しています。

2011年度より、地産(地材)地消の観点から、一部に道内の木材(道産材)を採用し、輸送エネルギー削減に寄与しています。国内の木材需要量の大半は外国産材によって占められていますが、北海道は森林が面積の約70%を占め、人工林も豊富です。適期に伐採した道産材を使用することで若い森林を育てることができ、森林の荒廃防止と道内の林業・林産業に貢献できます。

また、世界規模で森林が急速に失われる原因の一つに違法伐採が上げられますが、地域で合法的に生産された木材を使うことによって地域の森林や地球環境を守ることにもつながります。

地域で産出する材料を最大限に有効利用し、地球環境

や地域環境にも最大限配慮することで、最小の環境負荷の生産をお届けすることができます。



トイレブースの
パネルの内部構造

現場の声

道内では、道産材のカラマツが市場には多く出回っています。カラマツは割れや狂いが出やすい欠点がありますが、集成材にすることでその欠点を補えます。もちろんコストバランスが大事ですが、マテリアルマイルージ削減の視点でも道産材の活用は、これからも検討していきたいと考えています。

*マテリアルマイルージ: 原材料の輸送量に連ばれる距離をかけたものとして定義され、輸送に伴うCO₂排出量を推計でき、環境への負荷を表す指標となる考え方。

変形労働時間を採用してエネルギーを削減

札幌工場では、季節によって生産量が異なるため、稼働日数と労働時間を変更する変形労働時間制を実施しています。

1~4ヵ月単位で終業時間を4段階に分け、さらに繁忙期は稼働日数を増やし、閑散期は稼働日数を減らすなどして調整し、コストとエネルギー削減に努めています。

■2012年度の変形労働時間体制(本社就業時間比)

月	終業時間比(分)	稼働日数(日)
1	-15	-1
2~5	-30	
6	0	
7	+30	0
8~10	+30	+1
11	0	+2
12	0	+1

次代を担う子どもたちの育成を目的にインターンシップを積極的に受け入れ

例年、地元高校生のインターンシップを積極的に受け入れています。近年は、企業・業種に対する理解促進を図ることを目的とした、地元教育局からの就職促進マッチング事業にも賛同し、受け入れ回数を増やしています。

学生は保護者、進路指導の先生方と一緒に工場を見学し、先輩の体験談として新入社員の意見を聞くなど多くの情報を持ち帰り、将来の進路意識を高めています。



就職促進マッチング事業での見学会の様子

広島工場

〒731-0523 広島県安芸高田市吉田町山手980

1971年に操業を開始。主にドア、軽量シャッターを生産しています。1999年にISO9001、2007年にISO14001を認証取得しています。

TOPICS

豊富な経験・技術でお客様の品質要求に対応

西日本のドアの供給拠点として、ビルや住宅用ドアの生産を一手に担う広島工場では、特殊な曲げ加工ができるパネルベンダーシステムを設置し、豊富な経験・技術と充実した設備でお客様の高い要求にお応えしています。



パネルベンダーシステムで曲げ加工したドア(断面)

また、2012年からは品質向上に向けて最も大切な「人づくり・多能工化」に重点を置き、活動を展開しています。

一品一様のバラ図と呼ばれる展開図は、作図システムを統一化することで、経験の浅い社員にも知識や技術の継承に役立っています。

人づくりとして	<ul style="list-style-type: none"> ・30歳以下の社員を対象に製造全体をつかさどるバラ図の知識継承につながる教育 ・設備・材料メーカーのプレゼンテーションによる製品づくりの原理・原則について、知識の向上へつながる教育
多能工化として	<ul style="list-style-type: none"> ・溶接コンテストなどを実施し、個々の技能を発掘するとともにスキルアップにつなげる

担当者の声

変化に対応できる強い体制づくりが広島工場の強みです。お客様の多様な要望にお応えし、「オーダー製品に強い三和シャッター」という評価をいただいているのもその表れです。バラ図はそのつくり込み次第で品質や生産性が変わってくるほど重要なツールです。これからも、現場力を高める人づくり・仕組みづくりで、生産性向上と高品質なモノづくりを実現していきたいと考えています。

交流会で見つけた環境視点の取り組みで地域活性化

広島には自動車メーカーの工場がある関係で、部品などを製造する中小の企業が多く存在します。広島工場では、こうした他業種の方たちとも交流を深めるべく、地元・安芸高田市の工業会に参画し、様々な情報を交換しながら地域に貢献できる取り組みを行っています。

その中で、他業種(企業)が保有している設備・人の共有化に向けて、工業会を中心に検討しています。

実現すれば、リサイクル前の材料も有効活用でき、環境にもやさしく、地域交流による地元活性化にもつながります。



工業会に集まった地元企業の交流の様子

職場実習を通じた障がいのある方の就労支援

広島工場では、特別支援学校の知的障がいのある生徒の職場実習の受け入れを行っています。働く意欲を持つ生徒が地域で働き、そこで暮らしたいという希望を実現できるよう、職場での実習を通して働くことの大切さ、働く喜びを学んでいただいています。現場では互いに連携しながら安全に配慮し、就業するために求められる知識、技能、態度を身につけ、将来自立した生活を営む自信を持てるよう指導にあたっています。

実際、支援学校の卒業生が広島工場に勤めており、2年続けて職場実習を希望している生徒さんもいるほど生産現場に興味を持っていただいています。

現場の声

いつも元気な挨拶で職場の雰囲気明るくしてくれています。真面目に前向きに取り組んでいる姿勢には大変関心させられます。

昭和フロント株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-7

1984年設立(1963年創業)。主にストアフロント(店装用アルミ建材)をはじめ、ファサード、トップライトなどを施工・販売しています。2003年にISO9001認証を取得しています。

TOPICS

省エネと省スペースを実現したフロント組込型LEDサイン「エコレダ」

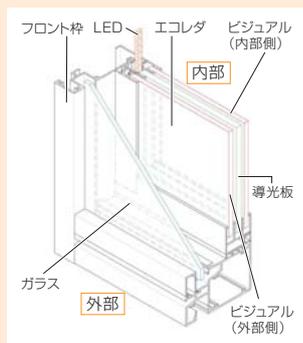
節電や省エネに対する社会的要請の高まりを受けて、昭和フロントは消費電力が少なく耐久性が高いフロント組込型LEDサイン「エコレダ(EcoLEDA)」を開発し、2011年9月に発売しました。

エコレダは、店舗フロントの窓枠などに組み込んで使用する製品。「LEDを使用しながら圧倒的な薄さを実現する」というコンセプトで開発されました。

光源にLEDを使用したことで、蛍光灯を使用する既存のサインや看板と比較して電力使用量は約3分の1。

ランプ寿命も蛍光灯を大幅に上回り(40,000時間)、環境負荷低減とコスト削減が実現できます。超薄型構造な点も特徴です。

幅広い用途に活用可能で、コンビニエンスストアやカフェなどの店舗、商業施設においてフロントのサインや看板に活用できるほか、オフィスや各種施設で、パーティションや光壁などにも使用できます。昭和フロントは今後とも、社会に貢献する商品づくりに取り組んでいきます。



EcoLEDAの特徴

エコレダはLEDと2枚のビジュアルボード、LED光を拡散する導光板で構成されます。両面発光なので、店内外のサインを同時発光できます。厚さはわずか38mm。



導入事例

兵庫県三宮市の三菱自動車ショールーム

蛍光灯の本数を削減する照明器具で省エネ化

本社全フロアーの蛍光灯設備(130台)を対象に、蛍光管1本で2本相当の照度を確保する高効率反射板を取り付ける工事を2010年9月に実施し、省エネを図りました。照度は10%程度低減しましたが業務には支障ありません。CO₂及び電力使用量の削減率はいずれも約15%で、一定の効果が確認されました。今後も同等の効果を期待できます。

従来 FHF32W2本
消費電力 67W 照度 799lx

交換後 FHF32W1本
消費電力 47W 照度 719lx



交換後の照明

エマージェンシーキット配布で災害対策を強化

多数の従業員が帰宅困難者となった東日本大震災を教訓として、缶入りのパンや保存水などの食糧や、サバイバルシート、軍手、タオルなどの実用品がセットになったエマージェンシーキットを全従業員に配布しました。

また、東京・大阪など都市部の帰宅支援マップを購入し、配布しました。今後は、全事業所で最低3日分の非常用食糧と保存水の備蓄を行う予定です。



現場の声

普段はデスク下のスペースに置いていますが、コンパクトでじゃまになりません。十分な備えができたことで安心感を得られました。

三和タジマ株式会社

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-77-5

2000年設立。主に建具、キャノピー、内外装金属製品などのアーキテクチュラルメタルズ、自動ドアやスライドシステムなどのエントランスシステムを製造・販売しています。

TOPICS

年2回の彫刻教室を通じて 地域社会との交流を促進

三和タジマは社会貢献の一環として、周辺地域に在住する小学生以上の方々を対象に、デザインやアート制作の楽しさを体験できる彫刻教室を埼玉工場（埼玉県入間郡毛呂山町）内で開催しています。講師を担当するのは三和タジマデザイン室の社員です。国内の美術大学で造形や美術を学んできた社員が中心となり、専門家としての見地で、参加者が楽しみながら有用な知識やテクニックを身につけられる独自カリキュラムを編成して指導を行っています。

第1回の教室は2011年8月に開催。以来、同年11月に第2回、2012年8月に第3回を開催しました。これまでのテーマは、粘土を素材にした文鎮作り、彫刻刀を使用した年賀状の木版制作などです。

活動を通じ、地域の文化意識向上に貢献するとともに、三和タジマと地域との交流を図ることが、教室を開催する最大の目的です。このような主旨について地元役

場と教育委員会にもご賛同をいただいています。三和タジマは今後、年2回（夏、秋）の定例イベントとして教室を開催していく予定です。



第1回「干支の文鎮づくり」



第2回「木版画による年賀状づくり」

担当者の声



デザイン室 担当部長
刀称平 富夫

参加した方々から「分かりやすい」「楽しい」などお褒めの言葉をいただき感激しました。今後も彫刻教室を通じて、文化意識の向上とさらなる地域との交流を図りたいと考えています。

参加者の声

紙にデザインをして、それを粘土で形にしていくな作業が面白かったです。それから、私の作ったものについて先生がいいところと悪いところをはっきりといてくれたのがよかったです。時間があっという間に過ぎてしまいました。もう少し時間があれば、もう一つ作品を作りたいかったです。次の会にも参加したいと思いました。

CO₂と電力コストの大幅削減を実現する照明設備のLED化を埼玉工場で実施

2012年6月、三和タジマ埼玉工場は環境負荷低減と電力コスト削減を目的に、主要工場棟の照明設備を水銀灯からLEDに交換しました。これにより、消費電力は従来の4分の1以下に低減する見込みです。

そのほか、点灯時の立ち上がりの早さや、光の色あいの良さなどが、作業効率向上に繋がることも期待されます。

埼玉工場では効果測定を続け、効果が実証され次第、名古屋工場や各事務所にLED導入を拡大する予定です。



導入前

最大電力 73.9kW
消費電力 20,683.6kWh/月
電気料 316,873円/月



導入後

最大電力 17.1kW
消費電力 4,784.6kWh/月
電気料 73,301円/月

省エネ効果 15,899.0kWh/月

沖縄三和シャッター株式会社

〒901-0212 沖縄県豊見城市字平良84-1

1973年設立。シャッター、ドア等のスチール建材のほか、店装建材製品などを製造・販売しています。2001年にISO9001を認証取得しています。

TOPICS

工場資材調達時に発生する梱包木材を縁側や畑の柵などに再利用

沖縄三和シャッターで製造される製品は、そのほとんどが県内で販売されています。そのため、シャッターからドア、手すり格子などのアルミ製品にいたる各種製品を取扱っていますが、一部、ドア関連については広島工場より製品供給を受けています。

ドア製品の輸送には木製パレット(荷役台)や梱包木材が使用されています。こうした工場資材調達時に発生する梱包木材は、次の離島に出荷する際の梱包材として再活用する一方、従業員の知人や友人、近隣の住民

の方へ呼びかけ、材料を引渡して、縁側や畑などの囲い(柵)などに有効利用していただいています。



木製パレットを材料にリサイクルして作られた手作りの縁側

近隣の方の声

木製パレットはシンプルなカタチで、ばらばらにすると扱いやすい角材になるのでいくつかいただき、自分たちで手作りの縁側を作りました。家族で夕涼みや屋外バーベキューをやるたびに縁側が活躍するので嬉しい限りです。

担当者の声

木製パレットや梱包材は産業廃棄物扱いとなるので、こうして再利用していただけるのはとてもうれしいですね。そんなにたくさんの数が再利用されるわけではありませんが、地域の方との交流にもつながるので続けていきたい思います。

毎朝、コンプライアンス行動規範を読み合わせ意識を高揚

コンプライアンスはCSRの基盤であるため、機会があるごとに、その重要性を呼びかけています。

うるま市にある沖縄工場では、意識の高揚を図るため、毎日の朝礼でコンプライアンス行動規範の小冊子を手に読み合わせを実施しています。



朝礼時の読み合わせの様子

担当者の声

コンプライアンス行動規範の小冊子には、社会人として大切なこともたくさん書かれていますので活用しています。どうしても土地柄、時間におおらかなところがあるので、そういった点も含めた確認の意味で毎日朝礼で1ページずつ読み合わせしています。

社会学習の一環である職場見学やインターンシップの受け入れ拡大

本社では、子どもたちの勤労観や職業観を育てることを目的とした小学生の職業見学を受け入れています。親などの身近な大人や地域の職場での仕事の様子を見学することで、自分の将来や感謝の気持ちを学びます。

子どもたちから送られてくる直筆のお願い状からは、慣れない文章にも一生懸命さが伝わってきます。

また、工場では毎年、職業訓練学校の生徒をインターンとして受け入れ、10日間にわたり実践的な業務を指導しています。



インターンシップ生による実習の様子

三和エクステリア新潟工場 株式会社

〒959-0113 新潟県燕市笈ヶ島1397-1

2000年設立。アルミ加工を中心とするエントランス、フェンスなどの住宅外溝資材や建築用資材を製造・販売しています。2002年にISO9001を認証取得しています。

TOPICS

女性が多く働く製造現場で 小さな工夫を積み重ね、働きやすい環境を構築

モノづくりの強みは現場の優秀な技術者・技能者によるもので、近年、製造現場では品質は当然ながら、競争力の源泉となる多品種・小ロット・短納期という対応で顧客の要望にえています。アルミ加工を得意とする三和EX新潟でも、近年は多品種少量のオーダーメイド商品を多く取り扱っており、現場で働く一人ひとりが高い技術を備えています。しかも、主材料となるアルミは鉄などに比べ軽いため、製造現場では女性従業員が多く働いています。その体格差を補うため、現場では早くから様々な工夫が施されています。

足踏み油圧式のリフター(可動台)もその一例で、低い位置から高い位置まで作業環境に合わせて加工品を上下

稼働させながら組立て加工を行っています。各人が高い技術で、責任をもって最後まで組立てた製品は、満足いただける仕上げでお客様のご要望にお応えしています。



三和エクステリア新潟の従業員



リフターを使って作業している様子

現場の声

アルミは比較的軽いので、大きな部材でも女性が加工したり、移動させたりしています。また、安全面からもリフターなどを使って生産性を高めています。製造現場に女性が多いという風景は特別なものではなく、必要な設備や環境を整えれば、誰もが安全で働きやすい環境になるので、これからも職場環境の向上に努めていきたいと思います。



管理課長 木山輝信

細部にわたる歩留まり向上の取り組み

原材料の定尺材からの材料取りで発生する端材を極力少なくするため、水平出し寸法を最小限にするなどの見直しを日常的に取り組み、材料の歩留まりを向上させています。また、2008年からは、切断機の5mmの刃を3.5mmに変更することで端材を抑制し、省資源につなげています。



3.5mmの刃によって端材を減少

暑い夏の工場内に 涼を呼び込む緑のカーテン

工場周辺は田園地帯で大きな建物もなく、その分、夏場は強い日差しが窓から差し込んできます。昨年来の電力需給が逼迫する中、自然の力を活用した緑のカーテンを南側の窓に施しています。育てているのはつる性植物のゴーヤーで、日射を遮ることで建屋内の温度上昇を和らげています。成長が早く、手入れが楽なゴーヤーは、毎年夏の暑さが厳しくなる前に植え付けをはじめ、収穫されたゴーヤーは従業員が持ち帰るなどしてムダなく食しています。



現場の声

少しでも夏の強い日差しを和らげようと始めた取り組みで、まだ一部の窓しか対応できていないものの、緑のカーテンの内側は体感的に涼しく、しかもその涼しげな葉っぱは、見た目も心も癒されます。

ノボフェルムグループ

■会社概要 / 「Novoferm」グループは1955年にドイツで創業した、欧州のドア・ガレージドア・産業用ドアの製造・販売会社のリーディングカンパニーです。欧州および韓国で事業を展開しています。



リーダーシップを発揮できる人材の育成

時代によって求められるリーダーシップは異なります。ノボフェルムグループでは従来よりノボフェルム・アカデミーと称する包括的な教育プログラムを導入し、従業員の能力開発に注力してきました。

この一環として、3つのテーマ・9つのサブテーマからなる

「リーダーシップ基準」を新たに制定し、経営層のみならず、ミドルマネジメントも対象にした教育プログラムを実施しています。ミドルマネジメントにとって重要となるリーダーシップ能力の向上を支援し、それぞれが自己実現を図れる環境作りに努めています。

■リーダーシップ基準

- 戦略的に考え、方向性を示す
- 顧客や市場のニーズを第一に考える
- イノベーションを促し、変化をリードする



- オープン・尊敬・信頼の文化を実践する
- 従業員の能力を最高レベルに引き上げる
- 協力と学習の多様性ある文化を構築する

- リーダーシップスキルを継続的に向上させる
- 決定事項を実行に移し、結果をもたらす
- 説明責任や信頼性を果たす

環境技術でエコライフを身近にするソーラーカーポートの開発

オランダでは従来の家庭用ガレージに加え、屋外の駐車用としてカーポートの需要が高まっています。また、自然エネルギーである太陽光発電による省エネも関心が高くなっています。こうした背景から、ノボフェルムオランダでは日本より輸入販売していた三和シャッター製カーポートに、太陽光発電パネルを組み合わせたエコ商品を開発しています。

上部に太陽光発電パネルを設置したカーポートは、建物の屋根のように強度などの制約が少なく、手軽に設置できる太陽光発電の新しいカタチです。これにより家庭用電力の約60%相当を賅うことができる見通しで、新たな環境配慮型商品として期待されています。



太陽光発電を利用したLED照明付きカーポート

上海宝産三和門業

■ 会社概要 / 中国鉄鋼大手の宝鋼集団公司の子会社、宝鋼工程技術集団有限公司と、三和ホールディングスとの合併会社。ビル用シャッター、オーバーヘッドドアを製造・販売する。



生産現場の屋根で取り組む節電、CO₂削減対策

産業用シャッター、オーバースライダーなどの製造・販売・メンテナンスを主な業務とする上海宝産三和の工場では、明るく快適な作業環境を目指すとともに、節電にも効果の高い天窗(トップライト)を設置しています。

生産現場におけるトップライトは、国内でも東日本大震災後の電力対策のひとつとして注目されています。上海宝産三和の工場では、トップライトから入る採光は拡散され、雨天や冬季の夕刻を除き、昼間の要求照度のほとんどを得ることができています。さらに、トップライトの手入れを定期的に行うことで、汚れによる採光率を下げることなく、併行して使用してきた照明器具も間引くことができ、これまで以上に節電とCO₂削減に寄与しています。



トップライトだけで要求照度が満たされている場内

現場の声

普段から工場内はとても明るく、就業時間の大半を天井からの採光だけで過ごしています。工場内の窓や出入口からも日は差しますが解放感がまったく違います。夏場でも拡散板が取り付けられているので陽当たりができず、トップライトの直下でも暑くありません。

ノボフェルム上海

■ 会社概要 / ノボフェルム・ドイツとティッセンクルップ・エレベーター・上海(TKE)との合併会社として設立し、現在は三和ホールディングスの100%子会社。ハイエンドの鋼製ドアと、防犯、防火ドアを製造・販売する。



電動自転車用バッテリー充電器を設置して環境負荷を低減するクリーンな通勤手段を推奨

購買力のある中間層が拡大し、マイカーが増えた中国ですが、まだ大勢が通勤の足として自転車を使用しています。このような自転車通勤者が大挙して乗り換えているのが電気自転車で、急速に普及が進んでいます。車社会が引き起こした大気汚染や交通問題の解消を目的に、北京や上海で施行されているナンバープレート規制も普及を後押ししています。

現在、ノボフェルム上海では、多数の従業員が電動自転車で通勤しています。彼らの利用動機は環境意識ではないようですが、省エネや排ガスゼロ、低騒音などメリットが多い電動自転車をノボフェルム上海は推奨したいと考えています。

そこで駐輪時にバッテリーを充電できるよう、駐輪場に充電設備を設置しました。設置後は多数の電動自転車通勤者から好評を得ています。また、バッテリーの誤った使い方に

起因する事故があることや、使用済みバッテリーのリサイクルが進まずに不法投棄が拡大していることから、バッテリーの取り扱い方について正しい知識を持ってもらえるよう、注意喚起やレクチャーを行うなど啓蒙活動を実施しています。



駐輪場に設置された充電設備で電動自転車を充電

表紙について

三和グループには、すべての業務において、現状に満足せず、問題意識を持って、スピードのあるPDCA努力を積み重ねるという体質が全従業員に根付いています。やろうとしたことは予定通り実施できたのか、できていないものがあるならその理由は何なのか、常に良い点を伸ばし悪い点を改善するCAの基本に立ち返って一つひとつの業務に当たる。それを象徴するのが「PDCA桜」と呼ばれるグループ内のシンボルマークです。表紙のデザインはその「PDCAを回し、着実に活動していく」というメッセージを込めています。



三和ホールディングス株式会社

三和ホールディングス株式会社 CSR推進部
〒163-0478 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル52階
TEL: 03(3346) 3717
<http://www.sanwa-hldgs.co.jp/>



本報告書は、環境に配慮したFSC® 認証紙を使用しています。印刷インキは環境負荷の少ない植物油インキを使用しています。印刷はアルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な水なし方式を採用しています

2012年10月発行